

第4学年1組 道徳学習指導案

赤村立赤小学校

1 主題名「正しい判断」

〔2-(3)友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。〕

資料名 「おかしいな」(『かがやき』3・4年生用<発行：福岡県教育委員会>)

2 指導観

- 本校では入学時から出席簿や学校教育活動でグループを作るときのほとんどが男女混合である。体育学習での着替えは4年生の2学期から男女別々に部屋を異にしている。(但し水着の着替えは1年次から別々の部屋を使用)

本学級の子どもたちは4年生になり、体育の時間で着替えに「別々な部屋を使わせてほしい」と要求したり、様々な活動を行う際に「男女で条件を変えるのはおかしい」と発言したり、とかく男女を意識した発言が多くなってきた。男子同士、女子同士で気の合う仲間をつくり自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動にこれまで以上に熱心に取り組む姿もよく見かける。しかし、自分の利害や集団間の利害に基づく衝突も強くなってきている。特に男女間のグループ同士のトラブルがよく発生するようになってきている。それでも、衝突を生み出した原因やそのときの気持ちなどを丁寧に語らせることで、気持ちの整理を自分たちでできるようになりつつある。しかし、原因となる心の変化や物事の本質に気付いたりする力は弱い。それでも単学級で進級していることもあり男女の仲はよい。

- 世の中には日頃何気なくやり過ごしていることでも、よく考えると「おかしいな」という習慣や考え方がたくさんある。血液型占いや姓名判断、数字の4や9の忌避、風水的な方角の考え方等々、科学的な根拠がなかったり、合理性や普遍性がないにもかかわらず、あたかも全ての人がそれを当たり前のように思い、生活に反映している場合がある。

男女の考え方にも日本の伝統的な慣習から生じる不合理さ、特に女性を下にみる傾向がある。家庭での日常会話や父母の考え方にも大きく影響を受けている子どもたちにとって、学校でも同じように「男のくせに。」「女のくせに。」ときめつけて判断する傾向があることは否めない。だからこそ、男女の差異による一方的な見方、判断はおかしいということに気付かせることがとても大事であると考える。

- 本主題の指導にあたっては、生活の様々な場面をとりあげ、物事の本質は何か、同じ情報でも気付かないために不利益を被ること、少ない情報で判断することの怖さ、みんなが言っているからそうだと思いつくことの間違い、男女差による一方的なきめつけのおかしさ等々に気付かせることをねらいとしている。

まず、写真の一部を隠すことで生じる錯覚や、獲物を狙うチーターが草むらに姿を隠していることに気付くかどうか草食動物の生死を決めること、血液型の違いによる性格判断、病室には「4」や「9」の数字が付いていないこと等々の事例を取り上げ、気付くかどうか、物事の本質とは何かを考えさせたい。その上で、男女の性の違いに基づくきめつけのおかしさを考えさせたい。

このような指導を通し、よりよい学級仲間として仲のよいクラスづくりへと意欲を高めていきたい。

3 ねらい

- 物事の本質に気付くことの大切さや男女間でもお互いに信頼関係を持つことが大事であることに気づき、よりよいクラスにしようという気持ちをもつことができる。
- 以下のことに気付かせることで、正しい判断をしようとする態度の基礎を養う。
 - ・ 少ない情報による判断は誤解をまねくこと。
 - ・ 気付かないために不利益を被ること。
 - ・ 血液型性格判断のおかしさ。
 - ・ 4や9を忌避することの根拠のあいまいさ。
 - ・ 男女の性差がきめつけにつながっていること。

